

# 認知症が増えています

## 認知症とは

「認知症」は、正常に発達した脳機能が後天的な障害によって壊れた状態を言います。現在の医学では進行を遅らせることしかできません。

認知症は老化にともなう病気の一つです。脳の細胞が壊れ、働きが悪くなって、記憶や判断力の障害が起きることで、社会生活や対人関係に支障がある状態を言います。

2012年の政府の推定では、65歳以上の高齢者の7人に1人(460万人)が認知症です。認知症と断定できない手前の症状をMCIと呼びますが、高齢者の400万人と推定されています。年間にMCIの10~15%の人が認知症に進むと考えられます。両者を合わせると4人に1人になります。

「加齢によるもの忘れ」と「認知症のもの忘れ」は違います。加齢によるもの忘れは、出来事の一部を忘れる(買い物で豆腐を買い忘れた)。もの忘れの自覚がある。探し物は自分で探す。症状の進行はゆっくり進む。

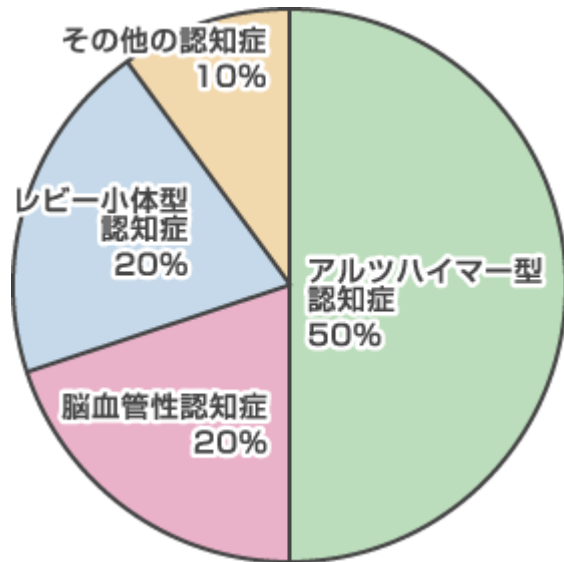
これに比べて、認知症の人は、スッポリ朝ごはん全体の記憶がない。もの忘れの自覚はなく、物がなくなると誰かが盗んだなどと他人のせいにする。日常生活に支障があり、治療をしないと症状の進行は早い。

## 認知症の種類

### ①「アルツハイマー型認知症」

認知症の半分を占めます。ちょっと難しい言葉ですが、脳にアミロイドβタンパクが過剰にたまり、神経細胞が傷ついて壊れることで起きます。この時、最初に傷つく細胞は嗅神経で、次に嗅神経の外側にある記憶神経が壊れて、もの忘れが始まります。

アルツハイマー型認知症の前段階MCIで、匂いに鈍感になることがあります。周囲の人に分かる匂いを本人が分からない場合は、家族が疑ってあげましょう。料理の焦げた臭いが分からない。汗臭いシャツを着ている。小水を漏らして何日も下着を替えない。



### ②「脳血管性認知症」

脳梗塞や脳出血、脳動脈硬化などにより、脳神経の酸素不足で起きる病気。記憶障害・言語障害・歩行障害が出やすい。

### ③「レビー小体型認知症」

男性が女性の2倍発症します。近い過去の記憶障害に加えて、病気の初期から幻覚、幻視が起きる。現実には存在しないものを生々しく見える症状で、「子供が何人もこちらを見ている」、「虫が壁を這っている」。気分や態度も大きく変化し、穏やか・無気力・錯乱とコロコロと変化します。

## 認知症の治療

脳細胞が傷ついたり、細胞数が減少したり、あるいは脳が委縮するなどの雑多な原因で認知症は起こります。認知症の原因が何かを特定することが治療の出発点です。それぞれのタイプの認知症でMCIを見逃さず、専門医と相談して原因を特定することが大切です。原因が分かり、治療を進めていくと、急激な症状の進行を遅らせることができます。

高齢化が進むほど、脳の病気は防げません。認知症になる可能性は誰にでもあります。「認知症の本人は自覚がない」という考えは間違いです。最初に症状に気づき、一番不安になって苦しむのは本人です。認知症という病気を理解して、さりげなく自然で優しいサポートを心がけましょう。